

# しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！

32

## 人生を豊かに する読書体験

大好きな町に恩返し

志免町消防団員  
小学校への本の寄贈活動

おかもと  
**岡本** まさし  
**雅史**

志免町生まれ、志免町育ちの42歳。

小学生から中学卒業まで武道(剣道)を通じて礼儀や修練、忍耐などを学ぶ。

「自分の町になにか恩返しを」と考え、子どもたちへの本の寄贈をはじめ。

2011年より志免西小学校、2020年からは志免中央小学校にも本の寄贈を継続中。

志免西小では「岡本文庫」という愛称で親しまれている。その他の地域活動では

志免町消防団(第7分団)に所属し18年目。(株)岡本工務店代表取締役



## 仕事や家庭とバランスをとりつつ、ボランティア活動を継続中

志免町で生まれ育ち、現在も志免町在住です。高校卒業後は美容師を志し見習いとして働きながら美容師免許を取得しました。その後、父の経営していた(株)岡本工務店へ入社し、現在に至ります。

地域のボランティア活動では、父が所属していたことがきっかけで、地元ですし親から子への順番かなと思い、志免町消防団第7分団に所属しました。23歳から参加し、18年目です。数年前に分団長を務め、現在も分団長をサポートしながら、団員として活動を続けています。

消防団は消防署員と連携しながら災害現場での消火、地震や風水害といった大規模災害発生時の救助・救出、警戒巡視、避難誘導、災害防御(災害の防止や災害の被害低減活動の総称)のために出動し活躍しています。災害が起きた時でないと必要性がなかなか伝わりませんが、一番大事な活動は「備え」のための訓練です。仕事や家庭もあり、団員としての活動を最優先に持ってくることは難しい中で、家族とも話し合い、折り合いをつけながら、時

間を作って訓練や式典などに参加しています。備えの不足には、災害が発生して初めて気づくことになります。それではその先の復旧・復興が遅れることに直結します。大変な活動でも、活動が好きな気持ちや人とのつながりなど、活動に魅力を感じている部分もあって、私自身は所属して責任感が芽生えたことで今も続けています。志免町の消防団員数は以前は140名ほどを維持していましたが、現在は100名以下と激減しています。それでも予算をかけて消防団を維持している必要性や意味を多くの人に知って欲しいですし、消防団員も増えて欲しいです。

趣味が登山なのですが、その山道では自然とゴミ拾いをすることが習慣化しています。無理せずいやにならないように、できる範囲、やりたいと思える範囲で活動をしています。本の寄贈もですが、始めたからには継続することを一番大事にしています。



## 志免町に生まれ育って良かった できることでなにかを返したい

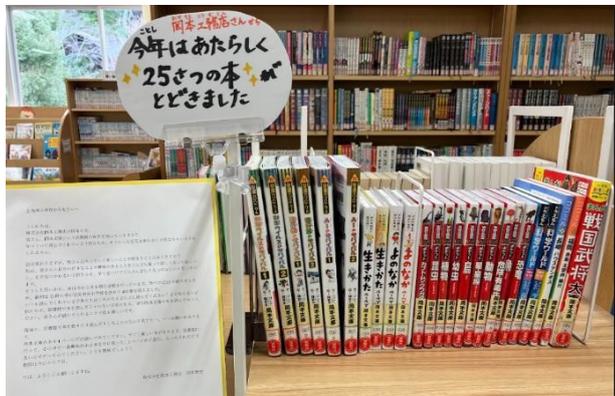
志免町になにかを返していきたいと漠然と考えていました。感謝や役に立てばという気持ちはあります。シーメイトへのおもちゃの寄贈や、志免町

への寄付をしたこともありました。

本の寄贈は、私が社会に出てから本を通じて様々なことを学び、仕事や人生に広がりが出て豊かになったと感じた経験から思いついて、始めました。

志免町子どもたちに、本を通じて新しい情報や刺激に触れて欲しい、好きなことや興味のあることを見つけ、夢中になれることに早くから出会って欲しいという思いで、小学校の図書室へ本を寄贈する活動を続けています。

志免西小学校には2011年から寄贈を始め、総冊数が400冊を超えました。「岡本文庫」という名前がついています。毎年子どもたちからお礼のお手紙をもらいます。また、志免中央小学校には、2020年から寄贈を始めました。



▲としよかんだより(志免西小)から



## 学びへと繋がる入口 深く学ぶ楽しさを知ってほしい

本をまず手に取って読んでほしいので、本を選ぶときは「子どもが読みやすく手に取りやすいか」を基準に選んでいます。本をよく読む子はすでに本が好きです。たまに読む子や読まない子に、ステップアップして本を好きになって欲しいので、漫画形式で学ぶシリーズを寄贈することが多いです。今は科学や歴史などをクイズ形式にしてわかりやすく教えてくれる漫画の本がたくさんあります。毎年学校の司書教諭の方とも相談させてもらいながら、学校からのリクエストも反映して寄贈する本を選んでいきます。本を読んで何を得たかを大事にしてほしいので、入口は漫画のシリーズだったとしても、その中で興味を持った分野、とにかく自分の気になる分野を選んで、そこからもっと深く知りたいという欲求

が生まれて、夢中になって詳しくなっていく過程が学びの根本だと思っています。興味のある分野が変わっても、本を読んで深く知って自分の知識にできるような経験をしていれば、興味を持つことが増えたときに分野が広がっても、応用してどんどん知識を深めていくことができるはずで。小学生のころからこのような体験をしていたら、学校の勉強が嫌いだという子も、自分の興味のある事を深く知っていく過程が学びであると気づいて、勉強が好きになるのではないかなと思っています。



## “好き”を見つけ人生が豊かになる きっかけを作れたらと願う

志免町は良い町だと思っています。住む人々の人生もより豊かになれば良いなと考えています。ここで言う「豊かさ」は人生が充実した状態であり、住む人々が豊かになればその人たちによって築かれる町も必然的に良い町になると思います。その可能性を広げるために、子どものうちに好きなことを見つけるきっかけを、本に触れることでつくれたら嬉しく思います。岡本文庫には、小学校の先生や司書教諭の皆さんにご協力いただき、大変感謝しています。今後も継続し、読書を始める子どもたちの一助になれば嬉しいです。最後になりましたが、はじめに寄贈した年に感謝の手紙をくれた子どもたちは、もう22歳になるかと思います。大きくなったら志免町に恩返しをしたい、人のためになにかをしたいと手紙に書いてくれたのを覚えているでしょうか。まずはひとつ、自分のできる範囲で行動してみるような大人になってもらえたら良いなと思います。ぜひ考えてみてください。



## 取材を終えて

岡本さんは色々と考えた結果、自分のできる範囲で、調整しながら継続できる活動を続けています。子どもたちの人生が豊かになるきっかけは、岡本文庫で出会った一冊の本かもしれません。「ずっと続けます」と話す姿に、人生の豊かさを感じました。

